

愛高組新聞

JITU

RENTAI

発行所 〒460-0017 名古屋市中区松原二丁目10-3 愛知社会文化センター内

愛知公立高等学校教職員組合

<http://www.ne.jp/asahi/jtu/aikoso2/>

TEL 052-684-4312

FAX 052-684-4314

rentai@aqua.ocn.ne.jp

URL(新)



e-mail



鵜森神社拝殿（三重県・四日市市）

新春メッセージ

瀧本司・日教組中央執行委員長



22年度の不登校の子どもの数は過去最多で、いじめの認知件数や暴力

行為の数も増加しています。また子どもへの暴力・虐待・自死などのち・人権に関わる事件が後を絶ちません。学校の内外で、子どもの人権が守られていない状況を深刻に受け止め、まずは地域・学校等での子どもの権利条約の周知が急務です。

「こども基本法」が昨年4月に施行され、「こども大綱」が12月に閣議決定されました。政府のあらゆる施策で「こどもの最善の利益」が保障されることが重要になります。子どもの権利が保障されるインクルーシブな社会を実現していきましょう。

教員不足が深刻な状況となっています。最大の解決策は、働き方改革と処遇改善をすすめることです。19年の給特法の改正によって、勤務時間管理はすすんでいるものの、長時間労働は改善されていません。GIGAスクールなど新たな業務の付加など業務削減もすすんでいます。現在、中教審特別部会で議

論がされていますが、真に学校の働き方改革に資するのかは予断を許しません。日教組は、「持続可能な学校のための7つの提言」を公表し、学校現場の勤務環境が本当に改善されたとき多くの教職員が実感できるような広く社会に訴える運動にとりくんでいます。引き続き、「給特法の廃止・抜本的見直し」を求めるとともに、教職員定数増と大胆な業務削減による、さらなる学校における働き方改革の前進を求めます。

少子高齢化・人口減少、不安定雇用と格差・貧困の拡大、疲弊する地方経済など市民生活をとりにくく環境は悪化しています。大規模な自然災害が後を絶たないなど社会・経済活動が停滞しています。しかし、岸田政権は、副大臣等の辞任、「政治とカネ」の問題、選挙目当てといわれる減税方針への批判などで国民の支持を大きく失っています。このような時だからこそ、組合員の政治への関心を高める努力をはかり、積極的なとりくみをすすめましょう。すべての子どもたちに平和で民主的な社会を引き継ぐため、組織の拡大・強化をはかりながら、未来につなげる運動を強化していきましょう。

「能登半島地震」被災地における子ども・教職員の安全・安心と子どもたちの学びの保障をめざす

日教組書記長談話

1月1日、石川県能登地方を震源とするM7・6、最大震度7という大規模な地震が発生しました。お亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈りするとともに、災害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。

また、行方不明・安否不明者の一刻も早い安否確認と無事を願っています。学校関係者のみなさまをはじめ、各方面で活動されておられます方々におかれましては、ご自身も被災されている状況のなかで、子どもたちや地域の方々の安全のためにご尽力されていますことに對し、深く敬意を表します。

地震発生後、1週間が経過するものの、いまだ余震が続いています。1月9日に始業式を予定していた被災地の学校では、始業式を延期し臨時休業を余儀なくされる学校が数多くあります。一方、始業式を行った学校においても、余震が続く中、子どもたちの安全・安心を確保しながらの教育活動の再開となっています。さらに、今週末には大学入学共通テストも予定されており、特例措置は講じられるものの、受験生のみなさんは不安な毎日をおすごされています。

現在の状況をふまえて、日教組は、瀧本司中央執行委員長を本部長とし、日教組「能登半島地震」災害対策本部を設置し、1月9日の中央執行委員会において、当面は災害救援カンパのとりくみや復旧にむけた被災地への支援を行っていくことを決定しました。また、被災地の要望をふまえ、政府・政党等に緊急要請を行っていきます。

この危機を乗り越えるためには、全国連帯での団結が欠かせません。日教組は、今後も一刻と変化する状況を把握し、子ども・教職員の心のケアをはじめとした安全・安心の確保とともに、ゆたかな学びの保障にむけ全力でとりくみます。また、連合等とも連携し、被災地の復旧・復興にむけたとりくみを強化します。

以上

2024年1月9日

日本教職員組合書記長

山本 正博

「働き方改革」の流れを止めるな

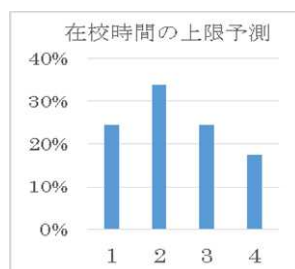
— 23 愛高組アンケートから(2) —

愛高組が毎年行っている、「教員の働き方」に関するアンケートの結果の概要報告の2回目です（なお項目番号は、一部の内容を省略・整理している関係で元のアンケートの番号とは異なっています）。

今回は、長時間労働の是正について、アンケートに回答していた方々がどのような実感を抱いているかを紹介します。

1 在校等時間

勤務時間外の在校等時間が年間360時間を超えそうかどうかを尋ねました。



		前年度	今年度
1	確実に超えない	20%	24%
2	おそらく超えない	28%	34%
3	おそらく超える	28%	24%
4	確実に超える	24%	18%

前年度との比較では改善の方向に向かっているようですが、まだ4割を超える方が年間360時間を超えると回答しています。年間360時間は

46
日
(2)

2 学校での時間
回答者の所属
校で在校等時間
の縮減について、
どのようにとり
くまれているか
を尋ねました。

2 学校での時短へのとりくみ

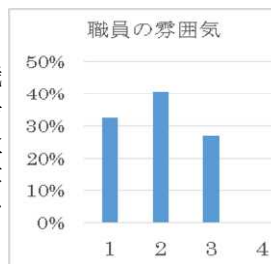
か月）分の労働時間に相当します。超過勤務の対象となれば、その支給額はボーナス1回分を超えます。

職員会等で具体的な手法が明示されている学校は2割に満たない状況が続いています。

「知らない」という回答が増えているのは、回答者に新規採用者の割合が高いことによりまです。とりくみが一過性のものではないことが懸念されます。

2 時短への気運

時短に対する職場の雰囲気を探ねました。



職場全体でとりくむ傾向が増えているように、3割弱が、かけ声だけで終わっているように感じられます。

		前年度	今年度
1	皆で取り組んでいる	25%	32%
2	一部のみで全体に浸透していない	42%	41%
3	取り組む様子が感じられない	30%	27%
4	意図的に無視している	3%	0%

教員の働き方
 改革に対する世
 間の注目がいつ
 までも続くとは
 期待できません。
 この時期を逃せば、
 なってしまいます。

1	皆で取り組む
2	一部のみに
3	取り組む材料
4	意図的に

尻すぼみと

20秒で
読めるルール

H.Y.

34.食前の祈り



れ ん ら く

2024年1月1日16時6分M5.5、震度5強、その4分後M7.7、最大震度7、6日までに震度5以上の地震が9回を数えました。東日本太平洋沖地震」発生から12年、熊本地震から7年で、またもや甚大な被災が生じました。物理的な被災のみならず、メンタル面に与える影響が心配されます。愛高組は、被災地の一日も早い復興と被災された方々の安心を心より祈念し、災害救援カンパを実施しています。ご協力をお願いします。

◎ これからのおもな運動の日程

1/20(土) 日教組「7つの提言の実現を求める」

全国集会

1/24(水) あいち平和フォーラム第6回運営委員会

1/26(金) ~1/28(日)

日教組第73次教育研究全国集会

1/27(土) 愛高組2024年度役員選挙公示

2/13(火) 23年度第3回日教組代表者会議

赤ペン

550

パレスチナのガザ地区では停戦を求める国際世論の高まりにもかかわらず、イスラエル軍は攻撃の手を緩めようとはしない。こうしたイスラエルの強硬姿勢の背景には、国内におけるユダヤ教原理主義の台頭があり、歴代首相で最も強硬派とされるネタニヤフがリクトと連立を組む原理主義の影響を受けた右翼政党に引きずられているとの有識者の分析がある。

原理主義という言葉こそ用いられないが、かつて学校教育の中で原理主義的な傾向が特に愛知県で顕著に見られた時期があった。「管理教育」という名で批判を受けていたが、それを推進していた関係者は言わば学校教育における「原理主義者」だったのではないかと考えてくる。

(H)

遺珠点点 80

地面が動いて裂け、飛行機が炎に包まれ、横丁が燃え広がり、人世に災いは尽きぬものと改めて思い知らされる年の明けだった。

それでも、正月は来る。ささやかに松飾を設え、お雑煮もしたくする。初詣はしないけれど、人に会えば「明けましておめでとうございませう」と一年に一度しか使わない口上で挨拶をする。そして、年賀状を受け取る。

これまでにずいぶん、形式的な年頭のみの挨拶を重ねてきた向きには、数年前から、賀状を辞退する言葉を書き添えてきた。それで、最近はどうやく三十枚くらいに落ち着いて来た。(それでも、三十枚! やっぱり多い!)

一時期、元日に日付が切り替わったとたんにメールで挨拶してくる人が何人かあったが、この頃はそれは無くなった。あれは流行り病のようなものだった。

不精な私は年賀状書きがめんどろで、年末ぎりぎりまで、なかなか手がつかなかった。ならば、印刷したら

どうかと言われても、印刷するほどの枚数ではないのだ。

友達で、交際の広い人がいて、毎年四百枚から五百枚ほど作ると聞いた。想像を絶する。その人は、十一月の半ばから葉書面の構成を考えて、写真を選んだり文面を考えたりしてパソコンで作成するのらしい、それはオリジナル、手作りの作品であるのだが、自筆の部分はほとんどない。マジックインクで「今年もよろしくネ」とあるくらいのもんだ。

こういう技術と趣味を持つ人は、自分の歳時記として賀状作りがあるわけで、よろしいなあ……というわけだが、素養がないから真似もできない。

それで、昨年は考えた。元旦に届く賀状は、これは私に宛てて書こうとして書いてくれているのだから、やっぱり私も一日に届くように書こう。三日に届くのも、年末ぎりぎりに書いて投函してくれたのだから、書こう。そのあとから来るもの、それについて想像すると、

元旦に私からの賀状が届いてしまったのを見て、「あら、書いてない人から来ちゃったよ、じゃあ、一応礼儀だし今から書こうか」という感じではないか。

そう考えると、四日以降にきた人には、もうご無礼する方がいいかと自分なりに理屈をつけて、書かないことにした。

そうしたら、今年はびつたり! 年末に書いた枚数と、一月三日までに受け取った枚数が同じだった! やった! ……と手を打ったことだ。



それから日が経って、今日、一月も十二日になつて一枚の賀状が配達されてきた。四十年も会うことなく過ぎてきたかつての同僚から。ちゃんとお年玉付き年賀はがきで、手描きの龍に「迎春」の朱書、その下に「ボケと体の衰えだけ着実に進んで行ってます……云々」。

これはどうすればいいのと、とりとめもなく、酔歩蹠蹠の体の年端月便り。

(き)